

写真で綴る出版記念会

4月15日の「出版記念会」は、ご多忙の中遠路よりご出席下さり、誠にありがとうございました。皆様方のご協力によりまして、盛大に行われましたこと、心から感謝申し上げます。

本を書くことは体力・知力の限界を走ります。2004年4月に「利益を生み出す経営モデル&実践シート」(すばる舎)を出版した時、もう2度と書くまいと執筆に封印しました。

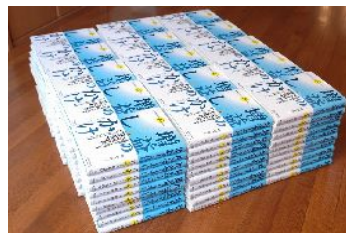
一昨年、2回の手術を機に仕事を半減させました。すると、多くの会社から貴重な増益経営ノウハウを頂きながら、このまま放置していいのか?と身体の中で熱いモノが動き始めました。折しも、同年輩の原田明夫さん(元検事総長)や千本倅生さん(イーモバイル会長)が活躍されているのを真近で見て、自分に何が出来るかを問いかけた時、本を出版することにより社会還元しようと思案しました。

ならば、**古希に出版しようと思案しました**。いざ書き始めると増益経営ノウハウが湯水の如く湧き出て45日程度で書き終え、出版社からの締切日は昨年12月末でしたが、7月上旬には早々と入稿しました。

タイトルは熟慮の上「**増益のしかけ**」とし、表紙は淡いブルーで爽やかな発刊の季節を演出しました。発行日は、出版社に切望して記念すべき誕生日の2009年4月15日となり、東洋経済新報社では本書のみが4月15日の発行日になりました。大変、貴重な拙書です。



増益のしかけ



贈呈用に真心を込めて150冊にサイン



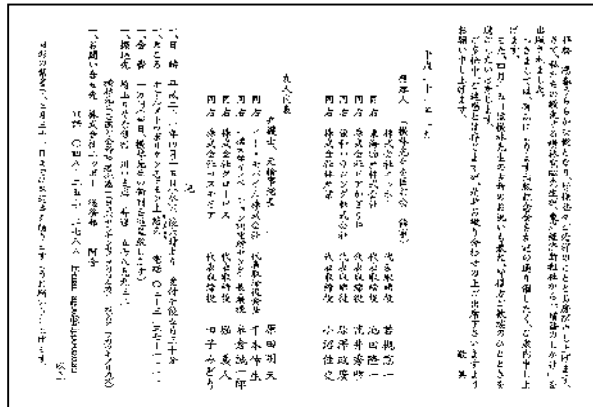
爽やかなブルー

古希を記念して、有志による「出版記念会」が2009年4月15日に開催されました。

不況で出席者数を心配していたのですが、153名もの出席者に驚きと嬉しさで感動しました。

「出版記念会」の発起人は、「囲む会」の幹事会社5社と友人代表5名によって実行されたのです。

第8回「横林先生を囲む会」が、4/15と4/16に開催され、これを挟んで4/15の夜に「出版記念会」(於ホテルエドモント)が開催された。同企画は、本書を書き始めた昨年6月頃に具体的にホテル等、実行予算を企画しながら進めました。「囲む会」は、幹事5社が持回りで事務局を担当し、今回は(株)ニッポー若槻憲一社長で、8年目を迎えました。



記念会の案内状

総合司会者は、昼間「横林先生を囲む会」の司会者と同じ阿合次長(ニッポー)です。彼は、総務部次長で常日頃から冷静な人物で、司会者として最適です。ただ、司会だけでなく、私と一緒に「囲む会」と「記念会」の運用を担当しており、イベントの案内、出席者の確認、ホテルとの交渉、スピーカーとの確認、舞台器具の確認と手配、そして「囲む会」が手弁当で運用しているから、予算的に大変であったと思います。

花輪の贈呈は、柴生田晴四社長(東洋経済新報社)、成田和幸社長(東日本ハウス)、堀義人社長(グロービス/同経営大学院学長)から、心温まるプレゼントを頂きました。残った綺麗な花達は、鑑賞されないまま捨てられ姿を消すのが悲しく、結婚式のような出席者に1本ずつ飾られた花を抜いてお持ち帰りするサービスも、ホテルとして配慮すべきと思案しました。

時間	内容	担当
17:30-18:00	開会、挨拶、名刺交換	全員
18:00-18:05	開会挨拶	総合司会者
18:05-18:15	横林先生挨拶	堀義一
18:15-18:20	挨拶	横林実功
18:20-18:25	挨拶	イー・モバイル社長 千本倅生
18:25-18:30	挨拶	東洋経済新報社社長 堀義一
18:30-18:35	挨拶	若槻憲一 若槻憲一
18:35-18:40	挨拶	若槻憲一 若槻憲一
18:40-18:45	挨拶	若槻憲一 若槻憲一
18:45-18:50	挨拶	若槻憲一 若槻憲一
18:50-18:55	挨拶	若槻憲一 若槻憲一
18:55-19:00	挨拶	若槻憲一 若槻憲一
19:00-19:05	挨拶	若槻憲一 若槻憲一
19:05-19:10	挨拶	若槻憲一 若槻憲一
19:10-19:15	挨拶	若槻憲一 若槻憲一
19:15-19:20	挨拶	若槻憲一 若槻憲一
19:20-19:25	挨拶	若槻憲一 若槻憲一
19:25-19:30	挨拶	若槻憲一 若槻憲一
19:30-19:35	挨拶	若槻憲一 若槻憲一
19:35-19:40	挨拶	若槻憲一 若槻憲一
19:40-19:45	挨拶	若槻憲一 若槻憲一

プログラム



総合司会の阿合次長



贈呈された花輪

幹事会社の若槻社長が、やや疲れ気味との情報が前日(4/14)の夕方に入り、同社長に自宅で静養して頂くようお願いし、社長の代読を同社渡部専務にお願いしました。

若槻社長の挨拶のメモを手にした渡部専務(ニッポー)は、持前の冷静さで会場を引き締めて頂きました。

著者の横林は、拙書出版経緯、内容説明、淡いブルーで爽やかな季節を演出した拙書を見せると、会場から拍手喝采で盛り上がってきました。

続いて、世界のIT経営者、千本倅生さん(イーモバイル会長)が、拙書を全読され、特に第2章「利益を出すには在庫を崩せ」と第7章「投資をしたくなる人物とは」の内容が良く書けていると褒めて下さいました。TVや新聞で知られた名経営者の顔を直接見られたと出席者の感動は大きく、私に寄せられるメールが後を絶ちません。



発起人ご挨拶の渡部専務



著者(横林)の挨拶



千本さんの祝辞

教授会(国立)を終えてから、会場に駆けつけて下さった米倉誠一郎教授(一橋大学)は、本書は実用的で、その裏に流れる人とか生涯とかが、大事にするものが隠されており、僕も感銘を受けた。

資本主義は戻らないと思うが、日本から新しい資本主義を作る時に、大変な手引書になる本だと思う。

我が国を代表する学者から、背筋が引き締まる緊張感と勇気のブックプレゼントを頂きました。

映像制作の仕事をしている長男曰わく、『ダンディで、浮世離れた教授らしくない、我々の業界で充分通ずる』と絶句し、ほれ込んでいました。私がノーネクタイになったのは、米倉先生の影響です。

幹事会社を代表して、池田隆一社長(東海物産)が横林式計数管理法の重要性を解り易く説明して下さいました。同社長は、発売初日に書泉ブックセンター(秋葉原)に自ら出掛け、拙書を手にした感触が忘れられないとおっしゃっています。第一号の個人名サインは池田社長でした。

続いて、乾杯音頭を原田明夫さん(元検事総長)にお願いしました。1年前にお願いしたのですが、既に先約があり、挨拶後次の会場に移られました。挨拶の内容は、「横林先生を囲む会」のメンバーは、自殺防止センターの募金に協力して下さい、悩む人々に愛の手を差出せる素晴らしい経営者だと評価されていました。



米倉教授の祝辞



池田社長の幹事会社代表の祝辞



原田明夫さんの乾杯音頭

原田明夫さんと私は、詩人三木露風出身の兵庫県立龍野高校の同級生です。関西から岡田君が知人2名を誘って駆けつけてくれました。山田君は、千本さんや経営者のスピーチが生々しく、活力を頂いたと喜びの電話を寄せてきました。彼達は、50年タイムスリップさせ、昔話に花を咲かせ大変喜んでいました。

法政大学大学院(経営大学院)で、私の単位を取得した教え子で構成しているHBSY会は、遠方の札幌、静岡、新潟から駆けつけ、15名が出席してくれました。吉田健二教授(同大学経営学部/写真後列右から3人目)に出席頂き、教え子達は楽しい一時を過ごしていました。オペで、「記念会」が終了してから駆けつけてくれた平林さんは、会費を支払いながら申し訳ないことになってしまった。会場では、語りつくせなかったメンバー達や彼女がお腹空かしているの、教え子達と2次会で楽しみました。

指導先の(株)林産業は、ポリ袋の生産会社ですが、このクラスでは国内トップクラスのクリーンルームを完備し、日本を代表する優良企業からの受注が耐えません。そして、小沼佳史社長の前向きな設備投資とM&Aが同社の発展に大きく寄与しています。



龍野高校の同級生



法政大学院の教え子達



林産業の幹部社員

一昨年、「横林先生を囲む会」の特別講演を千本倅生さんをお願いしました。その席上で、千本さんに原田明夫さんを紹介させて頂きました。その後、ご両人は偶然某社の社外取締役をされており、親しくされています。私の出版動機は、ご両人の活躍に感化され、執筆を封印していたのですが、記念すべき古希に当る2009年4月15日に出版する決意をしたのです。

原田明夫さん、千本倅生さんを始め、「囲む会」メンバー各位は、私を支えているのは家内だと言われます。彼女は、「囲む会」メンバーの殆どの社長、幹部社員を熟知しています。弊社の渉外部長かも知れません。指導先の課長が、鬱病で病院を恐れて診察に行かなければ、簡単に病院へ行かせたり、会社の上司に悩んでおれば相談に乗ったり、彼らのプライベートに関しては、私より良く知っています。

田子社長を米倉先生に紹介しようとしたところ、ご両人はご存知でした。お互いに、ベンチャー企業育成に尽力されているから、セミナーなどで一緒に仕事をされているのでしょう。



原田さんと千本さん



片岸智美さん(電陽社)と家内



米倉先生と田子社長

関東ニュービジネス協議会の理事会に参加後、タクシーで駆けつけて下さった(株)コスモピアの田子みどり社長(同協議会副会長)は、私の仕事とホテル、川魚、植物の育成こそ、共通した理論を組立てた科学者の姿勢だと、身に余る祝福を受けました。そして、早速ご自分のブログに拙書を御紹介されています。

続いて、私が社外取締役をしているマイクロストーン(株)の白鳥社長が、私に倒産直前救われたエピソードを、心地よいアルコールの手伝いのにせて、恵比寿顔で楽しく可笑しく、会場を爆笑に包み込みました。

会場は、同じ会社の同僚との親睦、「囲む会」で知合った各社の幹部社員との交流・親睦、同級生によるミニ同窓会、スピーカーとの名刺交換など、会場は盛り上げてきました。



田子社長のスピーチ



白鳥社長からの会社救済スピーチ



会場風景

トステムの元部下がタイから駆けつけて、恩師の米倉先生にご挨拶し、出張を変更して出席したトステム時代の元部下(現同社の役員)との思いで話を楽しそうにしていました。タイの国情が不安になったからと、急遽同夜に帰国したいと会場を後にしました。遠方から駆けつけてくれた、井上慶太君に頭が下がります。

家内は、今回の盛大なイベントの推進役を果たして下さった幹事会社の渡部専務(ニッポー)にお礼を述べていると、カメラマンに記念の写真を撮られたようです。

高い技術力が認められて、公的開発資金を片っ端から確保してきたマイクロストーン(株)はセンサー製品の会社です。白鳥社長、白鳥常務は、休日は勿論夜遅くまでの働き虫ですから、社員達も良く働く会社です。同社は、将来成長が期待される会社で、投資家から度々狙われますから、心配が消えないので、私は同社に投資と経営企画担当の社外取締役を引受けています。実に、真面目な社員と将来有望な会社です。左端は出版元の東洋経済新報取締役出版局長の大貫英範さんです。

東海物産(株)は、創業55年の会社です。ですから、大企業病に掛り、指導当初は私の指導に殆ど耳を傾けてもらえず苦労しましたが、在庫削減が経営を好転させたことで受講者の姿勢が大きく変わり、今年は製造部門に大きなコストセーブがあり期待しています。小沼社長(林産業、右から2人目)の飛入りは「囲む会」メンバーが如何に仲良しであるかの証です。



渡部専務と家内



マイクロストーンの幹部社員



東海物産の幹部社員

富山県から12名出席の(株)電陽社は、中古ビジネスを展開し、増収増益を続けている会社です。同社の中島博明社長は、頭脳明晰な経営者で、部下教育に余念がありません。2つのイベントで、フライトと宿泊費を考えると大きな出費になりますが、横林式計数管理手法の増益経営理論を自社に持ち帰り、事業経営に反映して頂けるものと期待しています。

新潟県の水害、地震直後に指導開始で、コストダウンを強力推進させ、会社の危機から脱出した思い出深い会社のフォーワンテックジャパン(株)は、指導前の損益売上高分岐点が21億円でしたが、現在は18.5億円と12%低下させ、生産速度アップで、昨年の原料高騰にも関わらず安定した事業経営を運営しています。

同社は、シール生産販売会社ですが、田中康之社長は新しい設備投資を果敢に実施、新製品開発型企業です。11名の出席者の他10社(名)の参加者に大きな協力を寄せて頂いた、栄和ハウジング(株)は不動産ビジネスの会社です。勉強熱心な原澤専務(社長夫人)は、気前が良く、部下教育を熱心にされています。右端は、山形県から参加の阿部敏明社長(マルハチ/漬物生産会社)です。



電陽社の幹部社員



フォーワンテックジャパンの幹部社員



栄和ハウジングの幹部社員

事務局の(株)ニッポーは、15名出席者の内、出雲からフライトで8名が示すように勉強熱心な会社です。指導先会社の中でも、極めてイノベーションによる企業改善が進んでいます。ところが、お世話になった事務局の幹部社員の写真が本ブログに記載されていません。言い返すと、幹部社員達は、受付、司会、会場見回りに出席者が配置され、社員が固まっていなかったから、写真が撮れなかったのです。申し訳ない気持ち、「記念会」が無事終了の陰に、同社幹部社員の大きな力を感じさせられました。

「記念会」の終了が近付いてきました。幹事会社の(株)ピアかざりやの新井日出子専務からの花束贈呈に続き、ピアかざりやの新井秀啓社長が、『横林先生から頂いた小さな種を蒔き、来年大きく育てて参加しましょう』と強い呼び掛けの閉会挨拶をもって、無事終了しました。

出席者の皆様方、心から感謝を申し上げ、誠にありがとうございました。



喜びを花束で表す著者



新井専務による花束贈呈



新井社長の閉会挨拶

<感謝> 会場内の写真提供は、三島純夫君(中学・高校の同級生)によるものです。

4/12(日)に、子供達家族から、古希のお祝いに来たいと連絡がありながら、イベント前の準備などで断ったので、今日(4/19)に長男家族(同じ屋敷内)5名、次男家族(鎌ヶ谷市在住)4名にお祝いを受けました。子供にご馳走なること抵抗がありますが、今日は、好きな蟹の会席料理をお腹一杯頂きました。

<お詫び> 参加者の写真撮影が隅々まで行き届かず、御紹介出来なかった方に申し訳ございませんでした。文中に、私的内容を記載しておりますが、ご了承願います。



横林ファミリー(於自宅庭にて/長男自動撮影)